

通信 i・ストリーム（法人版）VOL. 22



文：小川 康成
ファイナンシャル・プランナー

＜火災保険が10月に値上げ、来年は、自動車保険も＞

こんにちは。梅雨が長引いておりますが、こども達は夏休みの季節ですね。夏休みと言えば、こどもには宿題が有ります。そして経営者の皆さんには、今年の夏に行って頂いた方が良い事が一つあります。それは、火災保険の見直しです。各社10月より値上げを決定しており、全国平均で5%~9%程度の値上げ。九州など、地域によっては30%以上の値上げになる場合もあるそうです。特に、鉄骨造やコンクリート造などの構造で、工場や社屋に多い物件が値上がりしそうです。

具体的な要因は？



- ① 2013年・大雪の年~2015年・台風15号までの大型な自然災害の増加
- ② 冬季の凍結や、老朽化による水道管等に生じた水濡れ損害



上記、理由による3年分の変化に伴う保険金支払いの増加に対応するものです。ここで気を付けたいのは、今回の改定は2015年度まで3年間の保険金支払い実績に伴う料金の変更なので、2016年から頻発した大型の台風、西日本豪雨の影響は、今回加味されていないという事です。当然1兆円を超える保険金支払いがあった2018年の台風21号の影響も加味されていません。

⇒ 従って、来年以降さらなる値上げは必然となります。

ただし、今回の値上げは全国一律のものではなく九州や関東地方で大きな値上げになっていますので、所在地によっても大きく異なります。また、木造・鉄骨・コンクリート等の建物の構造によってもそれぞれ違いますので、具体的に個別に計算するしか方法がありません。

しかし、保険料の値上げを回避する方法もいくつか在りますので、この機会に火災保険の点検を試みるのも良いのではないのでしょうか？



また、高度成長期に建造された建物の老朽化に伴い、マンションやテナントビルでの水濡れ事故が年々増加しており、コンクリート造建物についても上げ幅が大きくなりそうです。このような建物にお住まい、若しくは所有されていらっしゃる場合は、水濡れ事故による階下の住人や、テナントへの賠償金を支払う特約に加入しておく必要もあるでしょう。

裏面では「中小企業にまで広がるサイバー攻撃の脅威」についてお話しします⇒

<中小企業にまで広がる、サイバー攻撃（ウイルスの脅威）>

今、メールによるウイルス攻撃が中小企業にまで広がっています。

少し前のデータになりますが、警察庁公表のデータによりますと「標的型攻撃メール」と呼ばれる、添付ファイルの付いたメールを受け取り、その添付ファイルを受信者が開封するとウイルスに感染するタイプのサイバー攻撃は、H24年1,009件がH27年には3,828件と4倍近くになっており、近年では全く珍しいものではなく、大手企業では社内で予防訓練まで行っているそうです。そして、予防訓練を行った会社の99%近くが、誰かファイルを開いてしまい、本当のウイルスであれば感染してしまう事態になってしまったそうです。



現実にはここ数年、保険会社でも社内で「標的型攻撃メール」の予防訓練をしているそうですが、いつも誰か引っかかってしまい、上司からこっぴどく絞られるとか(笑) 知識として分かっているけど、現実には中々難しいようです。

さて、中小企業ではどうなのでしょう？

平成30年の神戸大学と大阪商工会議所の「サイバー攻撃に関する」共同調査のデータによりますと、小売業から製造業までランダムに選んだ30社の中小企業で、調査用のサーバーを取付して3カ月調査を行った結果、100%・全ての企業でわずか3カ月の間にサイバー攻撃を受けた痕跡が見つかり、内5社では悪意のあるサイトとのデータのやり取りが行われており、企業の知らない間に顧客情報や技術情報、社員の個人情報などが漏れていた可能性さえあったそうです。

独自技術・個人情報・クレジットカードなどの決済情報を盗まれるのも問題ですが、もっと恐ろしいのは「サプライチェーン攻撃」と呼ばれる、自社のPC（サーバー）を踏み台にして取引先の大手企業に入り込む手口で、万一自社が原因で大手企業に情報漏えいの損害等を与えてしまった場合は、取り返しのつかない信用の失墜となりかねません。



自社のセキュリティ対策で充分であるのか？要員や費用の関係で気になりながらも、対策に取り組めていない企業さんもあるかと思います。

ひとたび被害に会えば、原因究明とPCの復旧で1台につき200万円近く掛かる例も多く、10台パソコンが有れば2,000万円近い出費を強いられることもゼロでは有りません。



現在愛知県では、中長期業向けに経産省と（独）情報処理推進機構がセキュリティ実証事業をリスク対策会社に委託して行っており、無償の診断も受ける事が可能です。

また、情報漏えいや発生時の対策費用を補償する新たな保険も注目されています。

目に見えないサイバー攻撃は、気を付けていても常に危険にさらされているという自覚が必要なようです。ご時世ならではの新たな心配事の種ですね。（苦笑）